

「総合的な学習の時間」とその指導法に関する  
教育実践報告をもとにした教授学的考察

杉原真晃

生田清人

## **A Pedagogical Study of "The Period for Integrated Studies" and its Teaching Methods, Based on Reports of Educational Practices**

---

This paper discusses the class "The Period for Integrated Studies" and its teaching methods from a pedagogical perspective and examines directions for improvement. It is based on the educational reports on "Teaching Method of the Period for Integrated Studies" offered at the University of the Sacred Heart, Tokyo, and on "The Period for Integrated Studies and Community Learning" at the second author's previous junior high and high schools.

Based on these two reports on educational practices, we considered "The Period for Integrated Studies" as a series of "teaching-learning activities" and conducted this study from a pedagogical perspective, especially from the viewpoints of (1) educational goals, (2) teaching methods and teaching materials/tools, and (3) evaluation. This method of consideration eliminates the bias of reports on educational practices by teachers and research reports by researchers and enables discussion from a general perspective on the entire class. This method can also be applied not only to "The Period for Integrated Studies" but also to each subject area. It was also confirmed that, in both "The Period for Integrated Studies" and the teaching of each subject, it was necessary to design classes based on a thorough understanding of the cognitive developmental stages and learning growth processes of the students rather than cutting out bits and pieces of the studies that form the basis of the subject matter.

Furthermore, the current "The Period for Integrated Studies" course is often designed in a way that is separate from the study of subjects such as Japanese, science, and social studies. As in the case of the educational practice report presented in this paper, however, the learning in the "The Period for Integrated Studies" can serve as the glue that connects the various subjects, and the learning in school education can be organically integrated into the learning in school.

## 1. はじめに

本稿は「教授－学習活動」および「評価活動」を一体として捉える教授学的な観点から、「総合的な学習の時間」（2018（平成30）年告示の学習指導要領から高校では「総合的な探究の時間」）とその指導法について、考察を加える。第一著者（杉原）は、本研究全体のデザインとコーディネートを行い、第二著者（生田）と意見交換を繰り返しながら、本学での教育実践報告をサポートするとともに、第二著者（生田）による教育実践を第二著者（生田）とともに教授学的観点から意味づける作業を行った。

### 1-1. 「総合的な学習の時間」の教育目標

「総合的な学習の時間」は、2000（平成12）年度から学習指導要領が適用される小学校・中学校・高校などで段階的に始められた。その教育目標は、2018（平成30）年3月に告示された高校の新学習指導要領<sup>1</sup>では、次のように規定されている。なお、高校では「総合的な探究の時間」となるが、本稿では小学校・中学校とあわせて「総合的な学習の時間」と表記する。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

また、2017（平成29）年に告示された小学校および中学校の新学習指導要領では、教育目標は次のように規定され、中学校では「小学校における（中略）取り組みを踏まえること」としている。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

このように「総合的な学習の時間」は、小・中・高校の各課程において、複雑化する現代社会の諸問題などについて、教科の枠を越えて、多様な教科学習や学校での諸活動で習得した知識と手法を活用して、自ら課題を設定し、資料を収集・分析し、表現・伝達できるようにし、探究に主体的・協働的に取り組む態度を養うことなどをめざしている。

## 1-2. 問題の所在と教授学的考察の必要性

しかしながら、第二筆者（生田）は、教職経験から、多くの知識を獲得したり概念を形成したりすることよりも、この学習を通じて知識が形成される過程を体験し、探究の面白さや意義や価値を実感することや仲間と協力して課題に取り組むお互いのよさを生かしながら新たな価値を創造することに喜びを感じるの方が、この学びをより有意義なものにすると考えている。

「総合的な学習の時間」について、学校現場からの教育実践報告や教育学研究者による研究報告が多数発表されている。このうち学校現場からの教育実践報告は、学校現場から教育委員会への報告という形が多い。例えば、神奈川県教育委員会がまとめた「神奈川県高等学校教育課程研究集録令和1年度版」<sup>2</sup>に収録された「総合的な学習の時間」の実践報告では、学習指導要領が目標とする「思考・判断・表現」、「主体的で、より深い学び」の達成の度合いと「評価基準」の説明が中心で、「総合的な学習の時間」が学校現場でどのように企画され、どのように進められたかについての具体的な報告は見当たらず、「総合的な学習の時間」に取り組んだ教員と生徒の活動のようすは見えなかった。

教育実践報告は、生徒が課題を設定するために教員がどのような準備学習や働きかけをしたか、生徒が課題を解決するために教員がどのような学習活動を提案したかなど、「総合的な学習の時間」をひと続きの「教授－学習活動」として検証する視座が必要である。このような視座の報告が前述した研究集録を通して学校現場で共有され、さらに実践報告が集まれば「総合的な学習の時間」の企画・展開と評価について比較検証が可能になり、教員にとっても生徒にとっても、有益な知識と手法が蓄積された研究集録になるのではないかと考えている。

一方、教育学研究者による研究報告は、第二著者（生田）が確認するかぎり、教員と児童・生徒が「総合的な学習の時間」でどのような活動をしたかについての言及はなく、評価方法と評価基準についての報告と議論に偏る。例えば、西岡<sup>3</sup>は「総合的な学習の時間」における課題を総合的に知識や技術を使うパフォーマンス課題ととらえ資質や能力の育成と評価について、加藤・安藤<sup>4</sup>はポートフォリオ評価に着目して、それぞれ議論を展開している。しかし、これらは「教授－学習活動」全体の中で議論されているわけではない。また、西岡は、「総合的な学習の時間」の企画・展開について「生徒にもっとも習得させたい力は何かを考え、それを学習目標として設定した上で、その成果を測る評価方法を明確にして指導する逆

向き設計論」を提案している。しかし、第二筆者（生田）は、この方法は、教科における単元学習では、学習課題の論点が授業展開の中でぶれることを防ぎ、教育目標と評価基準を整合させる効果はあるが、「総合的な学習の時間」は、ひとつの課題について年間を通して追究することに加え、初めに生徒の興味と関心により多様な課題に取り組むので、評価方法をあらかじめ設定することは困難だと考えている。この学習では、はじめに大まかな評価方針を話しあい、学習活動の進行と生徒の学習状況を観察しながら、最終的な評価方法と評価基準を決める柔軟な判断が求められると考える。つまり「総合的な学習の時間」のデザインや評価については、「教授－学習活動」を一体的に俯瞰する視座でしか有益な議論が尽くせないのではないかと考えている。

ところで、「総合的な学習の時間」は創設からまだ約20年である。そのため学校現場の教員や教職課程の学生に向けた解説書は心強い存在である。例えば、田中を中心とした人々が作った解説書<sup>5,6,7</sup>では、「総合的な学習の時間」の企画・展開のしかた、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価などについて解説されている。この書は構成が百科事典的でそれぞれの考え方や意味を理解することに役立つであろう。ひと続きの「教授－学習活動」の過程に沿う活用を行う工夫ができれば、学校現場で活用することができる。また、細尾<sup>8</sup>は、義務教育課程における実践報告をもとに評価について解説しているが、このような工夫が学校現場ですぐに活用できる手掛かりとなると考えられる。

一方で、「総合的な学習の時間」の実践・評価について、学校現場では低調となっていることが想定される。その理由はいくつかある。例えば、学校現場（とくに教科担当が主となる中等教育）には、教科間で連携して協同的な教育活動を行う意識や文化が醸成されにくい構造がある。それは各教科が教科を支える学問をわかりやすく教えることで成り立ち、専門性を強調する一方で、他教科と連携してある課題に向き合う経験が充分ではなかったことによる。また、戦後教育で普及した「調べ学習」は、教員が

生徒に課題を出して調べさせる学習活動であり、自ら課題を設定し、自ら資料を収集・分析する「総合的な学習の時間」の学びとは本質的に異なる。さらに、「総合的な学習の時間」を、例えば週1時数配当で行う場合、教員は週当たり平均18コマ前後の授業を担当するので、「総合的な学習の時間」の担当教員は、ほかにも複数の教科を担当し、その教科が入試科目であれば、その指導にかなりの時間を割くことになる。このような不安感や負担感が、学校現場で「総合的な学習の時間」を低調にする原因になっていると考えられる。

このような現状を改善するには、「総合的な学習の時間」の企画・展開および評価をひと続きの「教授－学習活動」ととらえる教授学的な観点からの考察が適切だと考える。教授学的な観点は、授業の教育目標、教授の方法、教材・教具の選択と活用方法、評価方法・評価基準など授業を一体的・総合的に考察する方法で、とくに3つの観点を重視する。

- (1) 児童・生徒のどのような知識と手法の形成をめざすかという教育目標の観点
- (2) 児童・生徒とどのような学習活動を取り組むかという教授法と教材・教具の観点
- (3) 児童・生徒の学習活動をどのような方法で評価するかという観点

以上から、第二筆者（生田）が前任校で担当した「総合的な学習の時間・地域学習」と、現在本学で担当している「総合的な学習の時間の指導法」の教育実践報告をもとに、「総合的な学習の時間」とその指導法について教授学的な観点から問題点と課題を考察する。

## 2. 私立開成中学校・高等学校における「地域学習」を主題とする「総合的な学習の時間」

私立開成中学校・高等学校（以降、開成中・高校）は、2002（平成14）年度からいくつかの「総合的な学習の時間」を立ち上げ、そのひとつは社

会科が主導する「総合的な学習の時間」で、週1時数配当で年間を通して行う「地域学習」として企画・展開した。

## 2-1. 「地域学習」の教育目標

「地域学習」を主課題とした理由は2つある。ひとつは、本学園は通学域が広く、ほとんどの生徒は基本的には自宅と学校の往復になり、本学園がある地域について理解を深める機会は少ない。本学園は1871（明治4）年に御茶の水に開学し、1923（大正12）年の関東大震災後に現在の日暮里の地に移った。そこで学び舎がある地域を理解することは、私学である母校のアイデンティティとそこで学ぶ自己理解につながると考えた。もうひとつは、中学3年生は認知発達段階と学び方の成長がひと通り完成する時期であり、この時期に自ら課題を設けて資料を収集・分析する学習を体験することにより、知識がどのように形成されるかを知り、探究の意義や価値を理解することを期待した。また、協同的に学びに取り組むことにより新しい知識や価値を創造できることを理解することも期待した。

## 2-2. 「地域学習」の課題設定とその指導

「総合的な学習の時間」で最も重要な「教授-学習活動」は、課題を設定することである。指導の観点からは、生徒にどのように課題を設定させるかということになる。実践報告や解説書では「児童・生徒の興味と関心により課題を設定する」と述べられることが多いが、手掛かりになる主たる課題がないところで課題の設定を行うと、児童・生徒がすでに持っている既習知識の範囲でしか課題を設定できずに、その時点で児童・生徒の力量の差が強く表れ、学習を進めるとさらに大きな差となって表れる。そこで、本学園の「総合的な学習の時間」では、前述の主旨をもとに「地域学習」を主課題とし、その範囲の中で生徒の興味や関心をもとに課題を設定



するようにした。

「地域学習」の対象地域は、旧江戸城下をふくむ、赤羽、新宿、錦糸町、品川を結ぶ範囲とした。なお、本学園は開学時には旧江戸城下にあったが、現在の日暮里の地は旧江戸城下ではない。また、調査対象として、江戸・東京の伝統産業と地場産業を推奨した。東京都には現在約40の指定伝統工芸品があり、その多くは江戸後期以降に興り発展したので、これらを地域の日々の暮らしとともに調べることは地理も歴史も学ぶことになり地域理解の観点からも意義があり、その後の教科学習全体が活性化することを期待した。一方、これ以外の課題、例えば、対象地域外の練馬区で「なぜ練馬で大根が生産されるか」について調べるとした場合も、生徒と話し合い、認めた。

1学期の授業（授業時数は12時数）は、課題を設定することを目標とした。また、地理担当教員と歴史担当教員の二人制（ダブルティーチング制）とし、江戸・東京について地理と歴史の観点から相互に概説的な解説をし、課題を設定するための資料をつくる作業学習を行った。例えば、対象地域の1897（明治30）年、1921（大正10）年、1955（昭和30）年の地形図を活用し土地利用図をつくり、地域の移り変わりを読み解く練習をした。また、明治・大正・昭和・平成の主なできごとをまとめた年表に、1871（明治4）年の開学以来の開成の主なできごとを書きこんだ年表（「江戸・東京と開成の歴史年表」）を準備して、これに生徒自らの生まれてからの主なできごとを書きこませ、地域と学校と自分の歴史を一体的に俯瞰できるようにした。

このような作業を通じて、生徒には気づいたことを用紙に記載させ、それをもとに疑問文をいくつも書くように指導し、その中から課題を設定させた。また、用紙は年度当初に配布したファイルに綴じこませ、最終的に生徒それぞれの「地域学習」のポートフォリオができるように指導した。

また、このような学習活動を支援するために、学校図書館と地域の博物館を積極的に活用することを推奨した。本学園では、中学校の図書館の一

角に「トウキョウ・コーナー」という「地域学習」のための書棚を設置し、江戸・東京に関する図書および資料を計画的・継続的に収集した。学校図書館の利用方法は、中学入学後すぐに国語科教員と図書館司書が指導するが、「地域学習」における検索の方法や記録のとり方などは担当教員が指導した。

さらに、本学園は、上野まで徒歩20分ほどの位置にあり、多くの博物館や資料館が集中するので、これらの文化資源を活用するため、担当教員が、博物館などに、本学園の「地域学習」の主旨を説明し、生徒が来館した場合の対応をお願いして回った。また、学内では、公民、国語、理科など他教科の教員にも指導をお願いした。とくにパワーポイントの作成や報告書の作成は、国語科、家庭科の教員に指導をお願いした。このように「地域学習」を有意義に進めるために、生徒の進捗状況を観察しながら、必要な学習環境を整えた。その結果、1学期期末には、例えば、次のような課題（原文のまま）が提出された。

- ・なぜ駐日大使館は港区に集中しているのか。
- ・なぜ江戸の町で甲冑が普及したのか。
- ・なぜ浅草通りには仏壇屋が多いか。
- ・板橋区で印刷屋はどのように発展していったか。

ここまでは、生徒をグループ化せず、生徒一人一人の地域調査の基本的な力量の養成と現時点の個々の生徒の力量の把握をし、今後の指導の方向性を検討するためにクラスごとに最近接領域を観察した。また、1学期終了時の形成的評価として、記録用紙、土地利用図や年表などの作業学習の成果などを対象にし、担当教員は、それらをもとに2学期に予定している地域調査の指導の方向性を検討し追加の資料などを準備した。

### 2-3. 「地域学習」の調査活動とその指導

2学期（授業時数は13時数）は、最初に同じクラス内で地域調査をする

3名ずつのグループを編成した。編成作業は生徒の話し合いに任せ、教員はクラス内の人間関係を観察していじめなど陰湿な人間関係がないことを確認した。また、クラス担任にクラス内の人間関係や雰囲気などの情報を共有してもらった。この確認を怠ると地域調査の途中でグループが壊れたり、新たないじめが発生したりすることがある。幸い、そのような経験はしなかったが、そのような状況が発生した場合は、すぐに授業を止めて進め方を変える必要がある。「総合的な学習の時間」では、クラス内の人間関係の観察はとても大切である。

グループが決まると、最終的な課題を決めるために、疑問文をいくつか準備させ、課題の設定の方向性、調査地域の選定理由、調査の進め方などを話し合わせ、内容を教員が確認してグループごとに事前調査に行かせた。事前調査は、授業のない土曜日の午後や日曜日を利用して行い、事前調査の報告は「地域学習ワークシート①」（資料1：文末に掲載。以降同様）にまとめて提出させた。「地域学習ワークシート①」には、グループのメンバー表、学校図書館で調べた文献リスト、事前調査での観察記録などをまとめ、提出後に、授業でグループ内での話し合いと教員との話し合いで最終的な課題を決定した。また、決定した課題について、課題となる疑問文、調査対象、調査地域、調査地域の特徴と課題の興味と関心について地域学習ワークシートク②（資料2）にまとめさせた。「地域学習ワークシートク②」の項目は、「どこで、何を調べ、どのようなことがわかったか、この調査にはどのような意義があるか、という報告書の語りの順にしてあり、この順に観察記録を文章化すれば報告書ができるようになっている。

地域調査は、10月から12月までの約10回の週末を利用してグループごとに行ったが、中学3年生は部活動で中心的な役割を担う者が多いので、メンバーがそろって調査に出かけることはむずかしく調査日の調整に苦労していた。また、校外での調査では、学校印・校長印を押印し調査目的を書いた身分証明書を持たせ、博物館での見学・資料調査や街頭でのインタビュー調査をする場合は、これを生徒手帳とともに見せるように指導した。

一方、授業では、地域調査で収集した資料と調査記録を、例えばKJ法で資料を整理したり、1学期に作成した土地利用図と年表に書きこんで、時間的・空間的な地域全体を俯瞰する中で地域の特徴を読み解いたりした。とくに、記録を白地図に書きこんで複数の地図を重ね合わせると相互関係を読み解けることや記録を年表に書きこむと時代背景と関係づけられることに、生徒は強い関心をもって取り組んだ。一方、調査結果の整理と分析に行き詰っているグループには教員が加わり、教員がさまざまな視点から質問と助言を行い、生徒が自ら気づくように進め、わかったことの整理の方法や文章化する方法も指導した。

また、教員がグループの話し合いに加わる場合には、質問や助言を教科学習との関連を意識して参加することが大切である。地域調査で気づいたことが教科学習のどの学習課題と結びついているかを意識して指導することで知識を総合化しやすく、グループの生徒の考えを重ね合わせることで新たな知識となることを実感することもできる。

2学期終了時の形成的評価は、事前調査のワークシート、課題に関するワークシート、地域調査で収集した資料と調査記録、ポートフォリオの整理状態、話し合いのようすなどを総合的に判断して評価した。また、調査結果を簡潔にまとめた報告を、冬休み中にグループごとに作成し3学期の最初の授業で提出した。

#### 2-4. 「地域学習」の報告活動と評価

3学期（授業時数は9時数）は、最終報告書の作成とクラスでの発表会と学年集会での発表会を行うことを目標にした。最終報告書は、あるグループの報告（資料3-1・3-2）を参考に説明すると、グループごとに4ページを割り当て、タイトル、調査の概要、調査の動機と方法、事前調査で考えた仮説、地域調査の結果、調査の整理方法と分析方法および分析結果、結論、資料調査、聞き取り調査などでお世話になった方々への謝辞、

文献リストの順で書くように指導した。また、タイトルを疑問文にすることにより、調査目的を明確にし、疑問文の答えを見いだすことでこの学習が完結するわかりやすい形でまとめられるようにした。このような学び方の知識や手法は、記述式問題や小論文に取り組む場合に発展的に活用することができ、「その後の学習」への転移や応用に期待して指導した。

クラスごとの発表会では、はじめに冬休みに作成した簡潔な報告をもとに見開き2ページのレジюмеと掲示資料を作成した。中にはパワーポイントを作ったグループがあったが、指導は家庭科教員にお願いした。発表会は授業時間を使いグループごとに15分を割り当て行った。各グループの発表後に、地域学習ワークシート③(資料4)を使い、クラス生徒による他者評価を行い、さらに学年の発表会に出る代表グループを選んだ。また、学年の発表会はホームルームの時間に学年集会を開き、そこでクラス代表による発表会を行い、地域学習ワークシート④(資料5)を使い学年の生徒による他者評価を行った。評価表は、選択肢を偶数個にしてある。これは奇数個にすると、評価が真ん中に集まる傾向があるので、評価がどちらかに偏ることで判断の理由や意見を述べざるを得ない場面を意図的につくり、話し合いが活発に行われるように仕掛けたもので、クラス代表を選ぶ投票における10個のボールも同じ意図による仕掛けである。

最終報告書は、クラスごとに整理して、中学の卒業文章を兼ねた約300ページの報告書(『トウキョウ作品集 あるく・みる・かんがえる』)<sup>9,10</sup>として発行した。また、資料調査や聞き取り調査に協力をいただいた博物館や資料館、商店会などの団体にグループごとに御礼状を書くように指導した。中には、自分たちの報告書の写しを持って、お世話になった方々に直接お礼を述べるため出向いたグループもあった。

3学期の評価は、3学期終了時の形成的評価と学年全体の総括的評価が重なるので区別して行った。3学期終了時の形成的評価はグループごとの最終報告、発表会での説明と展示資料、発表のしかたに生徒の他者評価を参考にして行った。また、学年の総括的評価は、ワークシート、収集した

資料と調査記録、最終報告などを学年始めに配布したファイルに整理して綴じこみ提出したポートフォリオで総合的に評価した。評価は、ひとつひとつの学習活動を厳密に評価することは控え、グループで疑問文の答えを見いだすために、多くの人の手を借りて資料調査や野外調査を行うことに積極的に参加し仲間と協力しあえることや「地域学習」により探究のしぐみを習得しその意義と価値を理解する態度を重視して評価し、生徒の自己評価と他者評価も参考にした。

### 3. 教育実践：聖心女子大学「総合的な学習の時間の指導法」

「総合的な学習の時間の指導法」は、教員免許法の改訂により、2019年度から教職課程の必修科目になった。本学では、2020年度より「総合的な学習の時間の指導法（中高）」および「総合的な学習の時間の指導法（小学校）」を第二筆者（生田）が担当している。そこで、前任校での教育実践報告に加え、本学で開講している「総合的な学習の時間の指導法」の2021年度の中高（前期）と小学校（後期）の教育実践報告をもとに「総合的な学習の時間」の指導法について教授学的な観点からその問題点と課題を考察する。

#### 3-1. 「総合的な学習の時間の指導法」の教育目標

本授業の教育目標は、受講生が「総合的な学習の時間」に取り組み、その過程で指導上の観点や知識および手法を習得し、教員として「総合的な学習の時間」の年間指導計画をつくること、教材と教具を準備して授業を展開すること、適切な評価方法と評価基準を設けて評価することができるように育成することである。

本授業では、本学にあるグローバル共生研究所にて2019年度と2020年度にSDGs第13目標「気候変動」に関する研究と展示が行われ、これにあわ

せて「気候変動」を主課題とする「総合的な学習の時間」の指導法を企画・展開したが、2021年度も引き続きSDGsから第6目標「きれいな水とトイレを世界中に」を主課題とした「総合的な学習の時間」の指導法を企画・展開した。

私たちが住む世界は、2019年末から新型コロナ・ウイルス（COVID-19）によって大混乱している。そこで予防としてきれいな水で手を洗うことが推奨されているが、世界の多くの地域ではきれいな水を得られないため水で手を洗って予防することが困難な状況であると報告されている（たとえば、<https://www.unicef.or.jp/news/2020/0047.html>）。一方、わが国では安全できれいな水で手を洗うことや衛生的で安全なトイレを使うことは容易であり、水には恵まれている。このような状況を踏まえて、水とトイレの問題は、小学校の児童にも中・高校の生徒にも身近な問題として「総合的な学習の時間」の課題に相応しいと考え、中高の指導法では中学2年と高校1年を対象に「水とトイレ」、小学校の指導法では小学4年を対象に「水」を主課題とする「総合的な学習の時間」をそれぞれ企画・展開することを想定した。

### 3-2. 「総合的な学習の時間」の課題の設定の指導法

主課題をもとに課題を設定する、あるいは設定させるには、前述した通り、主課題についての知識と情報を収集し、その内容は児童・生徒と教員が共有することが大切である。そこで中高の指導法では、次の3冊の図書を「基礎資料」とし、学生はこのうちの1冊を読み、図書の構成、内容、主旨などを整理して報告し合う読書会を開き、その意見交換から課題となる疑問文をつくった。基礎資料とした3冊の図書は次の通りである。

- ・南博・稲場雅紀 『SDGs - 危機の時代の羅針盤』 岩波新書<sup>11</sup>
- ・沖大幹 『水の未来 - グローバルリスクと日本』 岩波新書<sup>12</sup>
- ・佐藤大介 『13億人のトイレ 下から見た経済大国インド』 角川新書<sup>13</sup>

また、報告のしかたを次のように指導した。この報告のしかたを通して、将来、教員として指導することを想定し、文献購読の一般的な方法を学生に手法として習得することをめざした。報告は、はじめに書名・作者名・発行年・出版社名などを記したあと、次のことについて述べるように指導した。

- ①筆者と筆者の背景、どのような立場から語っているかを明らかにする。
- ②全体の構成を明らかにする。基本的には目次を見るとわかるが、読んだ人が理解したように目次を再編成したり、自分の言葉に置き換えたりすることもできる。
- ③書かれている内容、筆者の論点や主張とその根拠となる資料を中心に、章ごとに内容を箇条書きして整理して説明する。そして図書の全体的な内容を報告する。
- ④読んだ人はどのように受け取ったか、何を発見したか、何か意見があるならそれも含めてまとめる。また、参考にした図書や文献、SNS情報は出典をリストにする。

次に、「水」を中心とするコンセプトマップをつくった。コンセプトマップは、知識をどのように理解しているかを見える化した図で、1990年代に紹介する図書がいくつか世に出たが、リチャード・ホワイトとリチャード・ガンストンは『子どもの学びを探る』<sup>14</sup>で、さまざまな表現方法を具体的な事例をもとにわかりやすく紹介した。例えば、中心になる言葉（例えば「水」と関連する言葉（「言葉のラベル」という）を8～10あげ、これらの言葉のうち関係するものを互いにリンクで結び、関係性を簡潔に書いた言葉（「リンク・ワード」という）を添えて表し、「水」に関する理解を見えるように示す。これを活用して、「水とトイレ」に関する知識や情報が学生にどのように理解されているかを確かめ、この図をもとに課題の設定を目的にブレインストーミングを行った。2022年度から実施される新課程・高校の地理と歴史の教科書では、この図は「関係図」として登場した。

一方、小学校の指導法では、教員をめざす学生には「基礎資料」として



主課題の知識や情報を共有するために上記の3冊を読むように指導したが、小学校の小学4年の児童には、上記の3冊を読んで課題を設定することは、認知発達の段階や学び方の発達から考えるとむずかしく、また、10歳前後の児童は認知発達の個人差が大きいので、別の方法を学生と話しあった。その結果、教員が疑問文をつくり、それを説明する図や絵を画用紙にかいて、教員がリレー形式で紙芝居のように話をし、それをもとに児童の輪に教員も加わり紙芝居の感想や質問をきっかけにブレインストーミングをして、そこで課題となる疑問文をつくることを想定した。しかし、紙芝居を作り始めると学生から、実際に上下水道の施設や「水」に関する博物館を見学したいという希望が強く出たので、東京都文京区にある東京都水道局水道歴史館を見学し、見学記録といただいた資料<sup>15</sup>を参考に、次のような疑問文をもとに紙芝居をつくった。なお、小学校4年までに習わない漢字は学生が調べてひらがなにした。(紙芝居は省略／疑問文は原文のまま)

- ①世界には水がどこにどれくらいあるのだろう。  
水がほうふにあるところ、水があまりなくかんそうするところはどこか。  
なぜ、日本には水がほうふにあるのだろう。ほうふだから、よいこと、よくないこと。
- ②雨水や氷はどのようにして海にたどりつくのだろう。水はじゅんかんしていることを理解する。
- ③農作物をつくるにはどれくらい水を使うのだろう。(リットルで表す)  
稲を育てるには、どれくらいの水がいるのだろう。
- ④工場ではどれくらい水を使っているのだろう。  
せい品を作るためにたくさんの水を使う工場とあまり水を使わない工場があるって、ほんとう?!
- ⑤家庭ではどのようなことに水を使っているだろう。  
すいじ、せんたく、ふろ、飲み水、・・・ほかになにがあるだろうか。

- ⑥私たちが、毎日きれいな水を使えるのはどことなくふうがされているの  
だろう。
- ⑦むかし、海や川によごれた水が流れていた。なぜだろう。
- ⑧水をじゅんかんさせて使うと少ない水ですませることができる。
- ⑨利用できる水が少ない島などでは、トイレのあとに泡の洗剤を使っ  
ている。ほんとう？！
- ⑩水を大切にすくふうを考えてみよう。

### 3-3. 「総合的な学習の時間」の調査と発表活動の指導法

「総合的な学習の時間」では、課題が決まると課題を解決するために、資料収集をしたり野外調査をしたり、さらには資料整理や分析など作業をともなう学習活動や思考・表現活動が行われるが、どのような学習活動を選択するか、あるいは教師が提案するかは、学年ごとの認知発達段階や学び方の成長を十分に考慮する必要があると考えられる。しかし、認知発達段階や学び方の成長と具体的な学習活動とを結びつけた研究や議論はわが国では少ない。そこで、第二筆者（生田）が<sup>2010</sup>年から<sup>2015</sup>年にかけて笹川日仏財団の支援で開催された日仏の地歴教師の交流会に座長として参加して意見交換で得たこととその後の研究成果<sup>16</sup>をもとに解説した。

図1（文末に掲載。以降同様）<sup>注1</sup>は、フランスの学校教育は教育学や心理学の成果を下敷きに編成されているというフランスの地歴教師からの報告をもとに、第二筆者（生田）が、フランスの学校教育で影響力が大きいモーリス・ドバスとジャン・ピアジェの言説にジャン・ピアジェと交流があったジェローム・シーモア・ブルーナーの言説を加えて児童・生徒の発達の概観を整理したもので、学生には学習活動の選択と指導の参考にできるように解説した。

また、図2<sup>注2</sup>は、フランスの学校で学ぶ地理（「学校地理」）を例に、初等・中等教育における認知発達段階に対応する教科指導と学習指導を俯瞰

できるようにまとめたものである。ここでいう「教科指導」は地理の知識や地理的な考え方の指導、「学習指導」は前者の学び方の指導で、例えば、どのように資料を読み解くか、どのような記号やシンボルを使い地図をつくるかなどの指導である。また、この図は、学校地理を例としているが、学校で学ぶ教科に広く適用できる。この図で大切なことは、ひとつは、児童・生徒は認知活動について座布団を積み上げるように発達すると見ていることである。どの年齢期においても座布団が順調に重なっていることの観察が重要であることがわかる。もうひとつは、児童・生徒の認知活動の発達は前期中等教育がしあげの段階で、後期中等教育はひと通りしあがった認知活動を使いこなす演習と人格形成の段階であると見ていることである。この図を参考にすると、前期中等教育の中学校と後期中等教育の高校では、総合学習のあり方や教育目標は本質的に違うものになると考えられる。

この2つの図は、学生に児童・生徒の発達を考慮して「教授-学習活動」を進めることの大切さに気づかせることになったようで、学生の言動は実際の授業をより意識したものになった。前述の小学4年までに習わない漢字をひらがなにしたのは、この解説の後である。また、児童・生徒の認知発達を考慮しながら学習をデザインしたり授業を展開したりすることに、学生は学校の先生の仕事のむずかしさも感じたようだった。

中高の指導法でも、小学校の指導法でも、学生が個別に課題について調査をしている間に、授業では調査方法や学習活動をいくつか解説し、学生に実際に取り組んでもらった。

例えば、中高の指導法では、国際機関が調査したきれいな水にアクセスできる人の割合の統計をもとに階級区分図を作った。この時、ヨーロッパを中心とする国別世界地図を意図的に配布して地図に着色する作業をした。その結果、ヨーロッパ、北アメリカ、日本などはアクセスできる人の割合が多いが、そこを中心に同心円のように中心から離れるにしたがい少なくなり、アフリカ中央部は降水量が多いにもかかわらずきわめて少ない

ことがわかる。「地図に着色する」という学習活動は、小学校低学年でも行うが、高学年になってもこのような基本的な学習活動はおろそかにはできない。フランスの学校教育では、このような学習活動を認知発達に伴って重ねるように教科や学習活動を有機的に編成しているが、学生もそのことに気づいたようであった。

また、SDGs第6目標について、目標とターゲットの内容や意義を読み解く学習活動をした。その結果、第6目標は、2030年までに世界中のすべての人々に、安全で安価な飲み水を飲むことができるように、また、安心して使用できる下水施設・衛生施設にアクセスできるようにすることを最重要の目標としていること、とくに野外での排泄をなくす、女性並びに脆弱な立場にある人々のニーズに注意を払うことは第5目標の「ジェンダーの平等を実現しよう」と関連することなどがわかった。また、これらのターゲットを実現するために、水利用の改善と効率化や国境を超えた適切な協力の必要性をめざしていることもわかった。これらをもとに、現状を知るためにSNSを利用して情報を収集して共有する学習活動を行い、ICT教育に対応した学習活動を考えたり、英語科教員をめざす学生は目標とターゲットを英文で授業を行うことを考えたりした。

このような活動をもとに、学生は取り組んだ調査に修正加筆を行い、第二筆者（生田）が開成中・高校で活用した書式を参考に報告用紙（資料6）を作成した。

### 3-4. 「総合的な学習の時間」の評価方法と指導法

評価は、中高の指導法でも、小学校の指導法でも、ポートフォリオ評価とした。中高の指導法では、前述した通り、第二筆者（生田）が開成中・高校で実施したことを参考にした報告書を作成させ、それに至る学習活動とその過程の全体を評価することにした。また、小学校の指導法では、グループごとに模造紙に壁新聞を作る形で成果を発表させることにした。ま

た、小学4年生は、認知活動の発達と学びの成長に個人差が大きいので、児童の学びの成長を観察できるように診断的評価（資料7）、形成的評価（資料8）、総括的評価（資料9）の評価項目・基準を工夫し丁寧に行うことにした。このような学習活動をもとに小学校の指導法、中高の指導法で、小学校4年、中学2年、高校1年を対象にする「総合的な学習の時間」の年間指導計画（資料10、資料11）をつくった。指導法の授業では、年間指導計画の作成が最終目標となる。

一方、受講生の評価は、学生自らが「総合的な学習の時間」に取り組む中で、課題の設定と指導、学習活動の選択と指導、適切な評価方法の選択と運用などひと続きの教員としての仕事を修得し実際に運用できることと、学生同士で主体的・協同的に授業を創ろうとするようすなど取り組む態度を中心に評価した。将来、教員として「総合的な学習の時間」を指導する立場をめざす学生には、本授業が「総合的な学習の時間」を指導する出発点となるようにすることが大切だと考えている。本授業では、最後の授業で、「次年度受講する学生への手紙」という形で、学生に本授業をふりかえり総括する文章を書かせた。その中で、学生は、次のように述べている。「『総合的な学習の時間』という授業の特徴について2つの視点から考えました。ひとつは、教科横断的であり、物事を多角的な視点から考えるということです。それぞれの教科の視点を大切にすることで、物事の見方や考え方の幅が広がります。もうひとつは、知識の繋がり・関連性を学ぶ授業であるという点です。とくに、コンセプトマップをつくり、グループで発表内容を考える場面では、知識の構造化を実感することができます。」「『総合的な学習の時間』は、学年全体で取り組む学習です。問題を解決するために情報を集め、それをもとに自ら学び考えることを通して、協働的に問題の解決をめざす授業です。児童が、ある問題をどのように解決するか考える中で、児童の見方・考え方を広げられるように教師は指導する必要があります。」

#### 4. 「総合的な学習の時間」とその指導法についての教授学的考察からの提案

本稿では、2つの教育実践報告をもとに、「総合的な学習の時間」をひと続きの「教授－学習活動」ととらえ、教育目標の観点、教授法と教材・教具の観点、評価の観点から教授学的な視座から問題点と課題を考察した。

図3<sup>注3</sup>は、第二筆者（生田）が専門とする学校地理を例として授業のしくみを図化したものである。この図は学校の教科で広く活用できるものと考えられる。図では、50分の授業を3つの部分（20分+20分+10分）に区分し、最初の部分では授業の論点を明確にし、次の部分ではさまざまな資料を読み解いて主題に近づく学習をし、最後に初めの論点の答えを見つけないというしくみを考えている。理科や社会科などの問題解決型の授業ではよく見られるしくみである。「総合的な学習の時間」では、3つの部分は3つの学期と読みかえることができる。また、3つの部分で、それぞれ診断的評価、形成的評価、総括的評価を行い児童・生徒の観察をするが、最近接領域は、教員が生徒との問答から教員の支援があるなら生徒をどこまで成長させることができるか、自らの力量ではどのような支援ができるかという自問自答をする瞬間だと考えられるが、このことは教科学習でも「総合的な学習の時間」でも重要である。また、児童・生徒の知識形成のためには、わかりやすい題材を取り上げて生徒の認知発達段階にあう操作性の良い学習活動を準備し、それを有機的・継続的に積み上げていく「教授－学習活動」が重要である。

「総合的な学習の時間」は、創設されて20年で、まだ多くの研究と議論を積み重ねる必要がある。初めに紹介した学校現場から教育委員会への形式的な報告や「総合的な学習の時間」のある部分だけ取り上げた研究報告や議論でなく、「総合的な学習の時間」の全体を俯瞰しながら、実践報告と研究成果を積み上げ、学校現場で実際に活用できる総合的な議論を続け

ることが、「総合的な学習の時間」を教員と生徒にとって豊かな時間にするために必要であろう。

## 参考文献

- 1 「月刊高校教育」編集部編（2018）『高等学校新学習指導要領 全文と解説』学事出版
- 2 神奈川県高等学校教育課程研究集2019（令和1）年度版「総合的な学習の時間」
- 3 西岡加名恵（2015）『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法 新たな評価基準の創出に向けて』図書文化
- 4 加藤幸次・安藤輝次（2001）『総合学習のためのポートフォリオ』黎明書房
- 5 田中耕治（2005）『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房
- 6 田中耕治（2007）『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房
- 7 田中耕治（2019）『よくわかる教育課程第2版』ミネルヴァ書房
- 8 細尾萌子（2018）「『総合的な学習の時間』における評価」原清治・春日井敏之・篠原正典・森田真樹 監修『新しい教職教育講座 教職教育編 第8巻「総合的な学習の時間」』ミネルヴァ書房, 85-100
- 9 開成中学校（2011）『2010年度 中学3年地域学習 トウキョウ作品集 あるく・みる・かんがえる』
- 10 開成中学校（2010）『2009年度 中学3年地域学習 トウキョウ作品集 あるく・みる・かんがえる』
- 11 南博・稲場雅紀（2020）『SDGs－危機の時代の羅針盤』岩波新書
- 12 沖大幹（2016）『水の未来－グローバルリスクと日本』岩波新書
- 13 佐藤大介（2020）『13億人のトイレ 下から見た経済大国インド』角川新書
- 14 リチャード・ホワイト／リチャード・ガンストン 中山迅・稲垣成哲

監訳（1995）『子どもの学びを探る 知の多様な表現を基底にした教室をめざして』東洋館出版社

- 15 東京都水道局（2021）『小学校社会科学習資料 令和3（2021）年度版 わたしたちの水道』東京都水道局
- 16 生田清人（2022）「フランスにおける学校地理の地図表現指導で育成する思考力と表現力－高大接続の観点から見たしくみと課題－」『大衆教育社会におけるフランスの高大接続（広島大学高等教育研究叢書164）』, pp. 53-64

注1 図1は、主に次の文献をもとに第二筆者（生田）が作成した。

モーリス・ドベス 堀尾輝久・佐藤佐和訳（1982）『教育の段階 誕生から青年期まで』岩波書店

ジャン・ピアジェ 中垣啓訳（2012）『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』北大路書房

ジャン・ピアジェ 芳賀純・能田伸彦監訳（2005）『ピアジェの教育学－子どもの活動と教師の役割』Sanwa

三嶋唯義（1976）『ピアジェとブルーナー 発達と学習の心理学』誠文堂新光社

ジェローム・ブルーナー 鈴木祥蔵・佐藤三郎訳（2005）『教育の過程』岩波書店

注2, 注3 図2および図3は、第二筆者（生田）が参考文献16などをもとに作成した。



資料1：地域学習ワークシート①

- 今回の調査のグループメンバーを書きなさい。名簿順に書くこと。

組	番	(氏名)	* 同じクラスの3名、または2名でグループをつくります。 * 原則としてグループ・ワークで地域調査を行います。
組	番	(氏名)	
組	番	(氏名)	

- 学校の図書館で、下調べをした書籍の記録をつけなさい。(2冊以上)

	著者名	発行年	書名	発行所
①				
②				
③				
④				

\* 学校図書館を「総合的な学習の時間」の作業の基点にします。  
\* 学校図書館を利用した資料集めの方法を具体的に説明します。  
\* 参考文献リストの書き方を統一し、説明と練習をします。

- 下見に行ったところの記録をつけなさい。(2つまで)

①	下見をしたところ	* 学校図書館で収集した資料をもとに現地を下見をします。 * 複数の地域を下見し検討したうえで調査地域を決めます。 * 必ず調査地域で関係者への聞き取り調査をします。 * 下見に行く期間はあらかじめ設定し、生徒に迅速な行動と報告を求めます。
	調べたことがら	
②	下見をしたところ	
	調べたことがら	

- 今回の調査の対象地域と調査対象を、届けなさい。

調査する地域	* 地域の出来事やことがらに注目し過ぎると、「地域」の調査するという目的から離れるので気をつけます。
調査することがら	

この調査のおもしろいところ大切なところはどこ？ (具体的に)

..... \* 「おもしろいところ」「大切なところ」を書くことは、調査の動機づけや目的を明らかにすることになります。 \* また、生徒自らが設定した調査課題が、資料と下見結果をどれくらい深く読み込んで決めたかが見えてきます。 .....

.....  
提出期限：9月30日(木) (必ず守ろう！)

資料2：地域学習ワークシート②

- 今回の調査のグループメンバーを書きなさい。名簿順に書くこと。

組	番	(氏名)
組	番	(氏名)
組	番	(氏名)

- 今回の調査のタイトルを疑問文の形で書きなさい。(？はいらない)

\* 調査する地域名、地域の出来事などを入れて20文字程度の疑問文にします。

- 今回の調査は、何処を調べているか。 例：築地・上野・日比谷など

\* 調査する地域の場所と範囲を明確にするために、地域名を決め《疑問文》にも入れます。

- 今回の調査は、何を調べているか。 例；江戸切子・神田古書街など

\* 調査する地域をもっとも特色づける出来事や事象を取り上げ、《疑問文》にも入れます。

- 今回の調査地域を代表するモノ・ことを、3つあげなさい。(上記以外)

\* 調査する地域の特色を客観的に把握するために、《地域》を様々な視点から見ます。

- 今回の調査について、どこに興味や関心をもったのか、メンバーひとりひとりについて書きなさい。

- ① .....  
..... \* 調査をする《疑問文》(テーマ)の、どこがおもしろいのか、どこが重要なのか、グループのメンバーそれぞれの考えを整理して書きます。メンバーが、それぞれどんな思いや考えで調査するのか文字化して共有するようにします。 .....
- ② .....  
.....
- ③ .....  
.....

提出期限：11月25日(木) (必ず守ろう！)

資料3-1

なげ江戸町の町で甲冑が普及したのか



概要

江戸甲冑は、甲冑のうち、古甲冑を参考にして、昔ながらの制作技法で、本物の兜と平刀たがわめよみよに作られた甲冑である。戦品の世が終わって幕末の戦乱時代に現の著け方などがあつた(武士がいいた)。という逸話が残るほど平穏な時代であった江戸時代に、戦場での防具である甲冑が普及した理由をそれまで甲冑が盛んできた歴史とともに調べていく。

動機と調査方法

調査の対象を決める際に、配布された東京の伝統的工芸品の一覧が載っているブリントの中に江戸甲冑が書かれた。その時、「どうして比較的平和な時代であった江戸甲冑で甲冑の製造が盛んに行われたらうようになったのだろうか」と疑問に感じたのがきっかけとなった。主な調査方法は、図書館や特許庁などの公的機関の公式ホームページで資料を調べることで、甲冑の製造に関わっている方のお話を伺うこと、の二つであった。

考察

参勤交代の制度により多くの大名屋敷が江戸の町にはあった。このことが江戸の町に武士の文化を浸透させ、町民らの武士の強さ・身分へのあこがれが「武士が身につけるものを作り身の回りに飾っておく」という形であつたのではないだろうか。

調べてわかつたこと

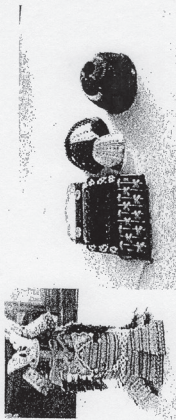
(1) 江戸甲冑の特徴と用途

端々の箇所に男子の服やかな成金を祝い、出世を願う飾り物として江戸時代に登場した。京甲冑のよゆうな飾り甲冑と違い重宝に用いられた総甲冑を細密に彫削していることで、経済産業省伝統的工芸品産業誌によると、「色合いも自然で、淡好み、写実的・洗練された」物が多いのが特徴らしい。その製造工程は複雑多岐で、金・漆工・皮革工芸・組紐技法などのあらゆる技術が集大成が江戸甲冑であるともいえる。また、人々の気持の甲冑を働いたものが多く作られていたことも特徴の一つである。

(2) 甲冑の終焉と復活

江戸幕府下の泰平にあつて、飾り甲冑としての特色が強い甲冑が多く作られるようになった。八代将軍徳川吉宗の奨励もあり復讐の思想を反映して多くの甲冑職人・人形が中世甲冑の修復に動じた。このころには町人らにも節句行事を楽しむ余裕が生まれ、江戸の町に広がっていた。その後、幕末の動乱で、幕末甲冑と呼ばれた組紐品が大生産されたが、その後の欧米の影響による火銃の急速な進化や近代軍隊の編成と共に日本甲冑の取組は歴史的に終止符が打たれた。これ以降甲冑作りはほとんど

行われなくなつたが、第二次世界大戦後に東京の甲冑職人たちにより、五月人形として甲冑甲冑が作られるようになった。これが今日の江戸甲冑である。



右 江戸甲冑 左 江戸甲冑の部品 (共に写物の7分の1)  
(平成22年11月20日撮影)

(3) 伝統工芸-伝統的工芸品としての江戸甲冑  
伝統工芸は文部科学省、伝統的工芸品は平成18年に「江戸衣装着身人形」と共に「江戸節句人形」として登録されている。

特許庁によれば、江戸甲冑とは「東京に由来する製法により東京都深川区・葛飾区・墨田区・台東区・文京区で生産された五月人形として飾るための甲冑」である。このことからわかるように、江戸甲冑は東京の広い範囲で製造されているのである。この業者も13社あり、生産額は240.7億円にも上る。また、手工業性も非常に高く、経済産業省曰く「時代考証に基づき制作されるものも多く、使用される素材は木や紙、絹糸や皮革の天然素材と鉄、銅などであり、主要工程のほとんどが手作業によって制作されている」とのことである。

また、表に各種多様な材料を使用しておりまとめると次のようになる。

- 皮革・牛・馬・鹿・犬・羊・羊・シカ、サル (一般に獣で代用)
- 漆器・漆・漆 (いすれも耐水性を高める役割も持っている)
- 漆器・漆・漆 (いすれも耐水性を高める役割も持っている)
- 接着剤…米・麦、膠、コチニール

(4) 甲冑師の「江戸甲冑」さんのお話  
この程度である「江戸甲冑」さんのお話

11歳で父を失った甲冑師は今日まで江戸甲冑に携わっておられる。江戸甲冑

資料 3-2

にお話を聞くことができた。

①現在の江戸甲冑について

江戸甲冑は約5万工程よりできている。年間3000個ほどを生産しているため、作業を効率化しているが、それでも一つ作るのに1/2サイズで実用二日はかかる(実際には多数の甲冑を同時進行で作る)。

現在はかつてのよう工程ごとに下請けに出すことができなくなっており、ほぼすべてを1人でこなすことができています。

②甲冑のこれまで

甲冑は防具兵器であるがゆえに時代とともに変化しており、たとえば甲冑の縁の部分には、当初田代であったが徐々に変化し南北朝時代には楕円となり、同時にひさしを付けやすくするために扇蓋の形を工夫している。

またその装飾品には一種の流行も関係しており、たとえば兜の星といわれる装飾品は存在するものも少なくない。



左 南北朝 中央 平安 左 南北朝 兜の形 (共に装飾物の7分の1)  
(平成22年11月20日撮影)

③甲冑のこれから

江戸甲冑は伝統的工芸品に指定されている。しかしながら加齢も早く、この指定は『誇っておけは消滅してしまう』物に対して行われるものであってこの指定に危機感を抱かれているようだ。またこの指定を委けても技術の保存などを行わずに、またた後継者育成事業を行うための費用も半分は甲冑職人が出さなければならないなど、十分な支援が受けられないというのが現状だ。

甲冑自体はすでに防弾兵器としての役割を終えているため新たな機軸の考案が必要だと、素材自体は変化していく可能性がある。

このような新しい技術を使っても古い技術と同じような仕上がりになり、さらにコストや時間を抑えられるものもある。ただし、経済産業省による伝統工芸品の指定は、『約100年続いた継がれている技術を用いていること』とされているため、この規定により規定されたような新しい技術の普及・開発が阻害されている。

一方かつて使われていた、現在のものより優れた技術の継承や、原料の調達が難しくなっている。数例に絞れば、かつて使われていた純度の高い漆は継ぐこともなくなっている。現在は純度の低い漆は継いでいるが、継いでいるため、作品に癖がつきやすくなっている。このように、製造工程や材料の変化は従来の方式で作った場合に比べ、その質を高く保てられる期間が短くなってしまいうなどの弊害も見受けられる。

平成17年度東京都職人形工業協同組合

生産額(百万円)	組合員数	従業者数(人)
3200	18	194

(出典 経済産業省 伝統的工芸品産業の復興に関する法律に基づく「器職人形」(江戸産物)形、「江戸木版画」の指定について)

④甲冑への思い

加齢も早い、甲冑は世界でも美しい兵器であり、『節句などの行事において800年ほどにわたり使われてきたものを動かす風習は世界でも珍しいもの、それにかかわれることは誇り』とのことである。

また、甲冑の製造を通して感じた、現代の若者に伝えたいこととしては、『何事もまず本物、最高の物を見るべき』とのことである。これは、『程度が低いものから融れどどれが最高かわからないから』だそうである。

結論

江戸甲冑とは江戸の町で馬牛の節句の飾りものとして普及した飾り甲冑であるといえる。現在でも東京の比較的広範囲において製造がおこなわれていることから、江戸時代当時は江戸全域に広がっていたと考えられ、江戸の町人たちにとって非常に身近で馴染みの深いものであったのだろう。

また、江戸甲冑は祭りなどの遠慮好きな江戸の町人たちの気質も手伝って節句行事の一環として広がっていったといえるだろう。

調査

調査に当たっては、現在の甲冑師である杉原真見さんに特にお世話になった。この場を借りてお礼申し上げる。ありがとうございました。

参考・引用文献

- ・伊藤昭二 2003年 「決定版」図説・戦国甲冑集 p181 学習研究社
- ・徳田良彦 1988年 「図解日本甲冑専集」 p29 雄山閣出版
- ・著 三浦一太郎/編 永瀬謙二 2010年 「日本甲冑図鑑」 p407 新紀元社
- ・長崎元春・佐藤寛山 1970年 「原色日本の美術 甲冑と刀剣」 p250 小学館
- ・長崎元春・佐藤寛山 1970年 「原色日本の美術 室町巻 甲冑と刀剣」 p250 小学館
- ・経済産業省 2007年 「伝統的工芸品産業の復興に関する法律に基づく「器職人形」(江戸産物)形」(江戸木版画)の指定について」(昭27アイカ)

資料4：地域学習ワークシート③

組	番	(氏名)
---	---	------

- 今日の発表の各グループの氏名・タイトル・評価を書きなさい。

グループ 1

メンバー \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

発表の内容 (よい) \* \* \* \* (よくない)

発表の方法 (よい) \* \* \* \* (よくない)

グループ 2

メンバー \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

発表の内容 (よい) \* \* \* \* (よくない)

発表の方法 (よい) \* \* \* \* (よくない)

\*同じクラスの生徒がどのような調査をしたのか、共有するために、発表するグループのメンバーの氏名と調査のタイトル(疑問文)を記してから発表を聞きます。  
 \*レジュメ・評価表はすべて自分のポートフォリオに整理してファイリングすることにより、調査とその結果を共有します。

グループ 3

メンバー \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

発表の内容 (よい) \* \* \* \* (よくない)

発表の方法 (よい) \* \* \* \* (よくない)

\*各グループの発表のあとに評価します。毎時間で評価するために、「発表の内容」と「発表の方法」にしほって評価します。  
 \*また、評価は偶数段階(4段階)で明らかにします。偶数なのでどちらかに偏ります。その理由の説明や改善案の提案を行います。

グループ 4

メンバー \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

発表の内容 (よい) \* \* \* \* (よくない)

発表の方法 (よい) \* \* \* \* (よくない)

組	番	(氏名)
---	---	------

- あなたは10個のボールを持っていて、それを今日発表したグループに、高い評価をした順にボールを分配すると、どのようになりますか。

グループ	1	2	3	4
得点				

→ 合計10個

- あなたが、もっとも多くボールを与えたグループについて、高く評価したところを、具体的に3つあげて説明しなさい。

- 1) ..... \*生徒がそれぞれ10個のボールを持っていると仮定し、それを発表したグループに分配する形で、評価活動をします。 .....  
 ..... \*「10個のボールを分配する」という意思決定したので、その理由を、「高く評価した理由」を具体的に3つあげる形で、ていねいに説明します。 .....  
 2) ..... \*また、高い評価を与えなかったグループに対しては、どのようにすればよくなるかという改善案を提案する形で説明します。 .....  
 ..... \*「発表をするー発表を聞く」という関係から、クラス全体で調査によって明らかになった知識やスキルを共有するという観点で進めます。 .....  
 3) .....  
 .....  
 .....

- あなたが、もっとも少なくボールを与えたグループについて、改善した方がいいところとその改善のアイディアを教えてください。

- 1) .....  
 .....  
 .....  
 2) .....  
 .....  
 .....  
 3) .....  
 .....  
 .....

組	番	(氏名)
---	---	------

- 今日の発表の各グループの評価を書きなさい。評価の方法は発表の前に説明する。

グループ 1

メンバー 3年4組 生徒3名が共同制作

タイトル なぜ駐日大使館は港区に集中しているのか

\* 疑問文の着眼点・おもしろさ


\* 疑問文から結論までの展開


総合点

--

\* 発表の内容/pptの内容

\* 発表のしかた・展開

グループ 2

\* 各グループに対して10個のボールを持ち、これを配分する形で評価します。  
\* 総合点は、この発表会に対して10個のボールを持ち、これを配分します。

メンバー 3年1組 生徒3名が共同制作

タイトル なぜ染物が早稲田で発達したのか

\* 疑問文の着眼点・おもしろさ


\* 疑問文から結論までの展開


総合点

--

\* 発表の内容/pptの内容

\* 発表のしかた・展開

グループ 3

\* 総合点と各項目へのボールの配分を相関してみると、調査・研究にはどのようなことが大切なのか見えてきます。 \* pptは、パワーポイントのこと。

メンバー 3年6組 生徒3名が共同制作

タイトル なぜ江戸の町で甲冑が普及したのか

\* 疑問文の着眼点・おもしろさ


\* 疑問文から結論までの展開


総合点

--

\* 発表の内容/pptの内容

\* 発表のしかた・展開

グループ 4

メンバー 3年5組 生徒3名が共同制作

タイトル 糶谷に町工場が多いのはなぜか

\* 疑問文の着眼点・おもしろさ


\* 疑問文から結論までの展開


総合点

--

\* 発表の内容/pptの内容

\* 発表のしかた・展開

## 私たちがつくる持続可能な世界 ～SDGsをナビにして～

( ) 年 ( ) 組 ( ) 番 名前 ( )

みなさんは、これまでの学習で、現代社会の様々な課題を学び、自分たちなりに解決策を考えてきました。みなさんのアイデアや力が、世界の人みんなで 2030 年までに達成しようと思った『持続可能な目標 (Sustainable Development Goals)』を達成する大きな力になります。

これからの社会を持続可能で、よりよいものにするためにはどうしたらよいでしょうか。また、あなたは何ができるでしょうか。レポートにまとめてみましょう。

### 1. テーマの設定

冊子に掲載されているトピックを参考に、あなたがこれから解決策を考えたいと思った目標や課題を書きましょう。

<テーマ>

<そのテーマ (目標や課題) を選んだ理由>

### 2. テーマを探究するため必要な資料・調査の方法

- ・
- ・
- ・

### 3. 現状・調査結果 (調べて分かったこと)




資料6

( )年( )組 ( )番 名前( )

4. 解決策（現在行われている取り組み・将来に向けた取り組み）


5. 分析や考察の結果・自分の考え


レポートを書き、考えを整理した後で、これからあなたが生きていく中で、どのような行動ができるか、アイデアを、行動宣言として下の口の中書きましょう。

行動宣言
------

資料7



# 水アンケート

4年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

1, 次の選たくしの中で、もっとも水を使うのはどれでしょう？

番号に○を付けよう！

選たくし ( ①お風呂 ②トイレ ③料理 )

2, 1の選たくし以外に、みなさんはどのような時に水を使いますか？

\_\_\_\_\_

3, お風呂にどのくらいの水を使っていると思いますか？

番号に○を付けよう！

選たくし ( 2Lのペットボトル ①1本分 ②22本分 ③43本分 ④107本分 )

4, みなさんは、学校の中で、どのような時に水を使いますか？

\_\_\_\_\_

5, じょう水場や下水場を知っていますか？

\_\_\_\_\_ 知っている \_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_ 知らない \_\_\_\_\_



6, 水について知っていることを自由に書いてみよう！

資料8： 形成的評価 自己評価シート（小学校）

1学期 自己ひょうかシート

	よくできた	できた	よくできなかった
● 積極的に授業に参加できましたか？	A	B	C
● メモを取りながら話を聞くことができましたか？	A	B	C
● 情報や資料の集めかたは理解できましたか？	A	B	C
● 知りたいこと・調べたいことを見つけられましたか？	A	B	C

2学期 自己ひょうかシート

	よくできた	できた	よくできなかった
● 積極的に授業に参加できましたか？	A	B	C
● 博物館・図書館ではルールを守って行動できましたか？	A	B	C
● グループで協力して活動に取り組むことができましたか？	A	B	C
● グループで役割の分担を話しあって決めることはできましたか？	A	B	C
● 自分たちが知りたいことの答えは見つけられましたか？	A	B	C
● わかりやすくまとめられることができましたか？	A	B	C

3学期 ひょうかシート

	よくできた	できた	よくできなかった
● 積極的に授業に参加できましたか？	A	B	C
● 他の班の発表や発言をメモを取りながら聞くことができましたか？	A	B	C
● 他の班の発表や発言について自分の意見を持つことができましたか？	A	B	C
記述 * 解答欄は省略			
■ 水について学んで、むずかしいところ、わからなかったところはどこ？	A	B	C

資料9

総合的評価 評価シート

児童氏名 ( )

	評価項目	評価
●	グループで適切な計画を立てて活動できた	1……2……3……4
●	調べたこと・気づいたことを記録し、記録のもとづいた自分の考えを言うことができる。	1……2……3……4
●	課題にもとづいて積極的に資料を集められた。	1……2……3……4
●	課題にあう適切な資料を選ぶことができる。	1……2……3……4
●	学校図書館を利用し資料を集めることができる。	1……2……3……4
●	グループでの活動に積極的に参加することができる	1……2……3……4
●	ノートをとりながら、説明を聞くことができる。	1……2……3……4
●	収集した資料をもとにわかりやすい資料をつくること ができる。わかりやすい図や表のくふう。	1……2……3……4
●	博物館などで施設のマナーを守り利用できた。	1……2……3……4
●	水について基本的な知識を理解できた。	1……2……3……4
●	水の大切さについて理解し今後の生活に活かそうと している	1……2……3……4

● 評価基準を作成した学生（2名）のノート

☆見学を終えて必要かと感じた項目

- ・自分が飲んでいる水がどこから来ているのか理解している。
  - \*水の流れを光の流れで表現した展示があった
- ・事前に配布した資料（パンフレット）を読み積極的に見学している。
  - \*博物館の案内図をみて、自分の興味・関心に気づいている児童は評価したい。自分の興味を表現できる、事前準備ができる、展示を見てすでに知っていることがあれば、評価できるか？
- ・1つ1つの展示から重要な情報を読み解いて理解している。
  - \*クイズ形式で資料をよく見ないとできないように設定することによって評価できるか？
- ・展示の中から一番印象に残ったことについて、他者に伝えることができる。
- ・自分が大事だと思うことはメモを取ることができている。
- ・知り得た知識や情報を日常の中で活かそうとする態度ができるか。
  - \*例えば、手を洗うときに蛇口を適宜閉めることができる。

☆水のアンケートについて考えたこと

- ・自分の経験をもとに回答することができる。
- ・自己評価シート、発表会の他者評価シートについて、客観的に活動を整理することができる。
- ・他者の活動に目を向け、良いところと改善した方が良い点を挙げるができる。

★1学期

- ・博物館に行った感想を書いてもらう。（確認材料にする。）

★2学期

- ・まとめ・発表準備、資料の整理、まとめ方の指導、模造紙を使用し発表、グループ活動。
  - \*資料の整理を小学4年生に任せるのは難しいことか？（教師の指示や誘導が必要）
  - \*例えば、大きめの付箋紙を使用する+基準や項目は事前に教師が決めておく。KJ法
  - \*小学生にとっては基準項目（看板）を作っておく必要がある。
- ・調べる方法について例をあげて教える→模倣から修得できるように工夫する？
  - \*例えば、水道局のHP等にある図解を提示し、何かをわかりやすく説明するために図を使うという手段があることを伝える。
- ・疑問を発見、自分の課題、協同的 脱中心化ができている←まだ難しい！
  - \*教師がいくつか疑問を提示し、「どうする？」という問いかけ（疑問を選択）
- ・自分の考えを発表する、伝えることができる。
- ・聞いたことに対する（教師からの質問に）答えることができる。

★3学期

→他者の意見を聴く、質問できる

- グループで発表することができる。
- 人の話を聴いて（他のグループの発表を聴いて）、感想を述べたり質問したりできる。
- 他者の意見が多様であることを知る。（受け入れられなくても知ればよしとする。）
- 発表されたことをノートに書き留めることができる。
- 自分たちと水の関係を理解する
- コメントカードの内容（感想や他者の発表への質問など）

←自分で該当グループを選んだ上でシートに記入する

- 自己評価シートの内容（各学期の評価が必要？最後は必ず必要）
- 他者評価シートの内容（最後のみ）
- グループで発表→他者に伝えるための適切な表現ができている Ex) 言葉遣い、字の大きさ、口頭説明もあるのであれば声量など

→参観日を作り各クラスで発表、廊下で掲示など

→口頭説明を評価するに当たって、コメントシートに説明のわかりやすさや声量、作成した資料の見やすさを④段階評価で付けられるようにし、他者評価（に加える）としても良いのではないだろうか

（以上）

資料10：総合的な学習の時間《年間指導計画・小学校》2021年度

テーマ	「水をたいせつに」
学年	小学4年生 30時間配当（1学期14時限+2学期14時限14+3学期7時限）
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水をたいせつに」を課題に、日々使う水についての基本的な知識を習得し、水をたいせつに使うことを、みんなで調べ、考え、伝える。</li> <li>・話をノートに書き留めながら聞き、自分の考えを伝えることができる。</li> <li>・グループで協力して1つの問題に取り組むことができる。</li> <li>・日々で生活で水をたいせつにする態度を育む。</li> </ul>
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診断的評価として「水のアンケート」</li> <li>・水についての基本的な知識を伝える「紙芝居」もしくはパワーポイント</li> <li>・基本図書として、沖大幹（2016）『水の未来－グローバルリスクと日本』岩波新書 No.1597</li> <li>・「私たちの水道」（東京都水道局HP／広報誌）</li> <li>・形成的評価として「自己評価シート」各学期分を準備する</li> <li>・形成的評価として「発表会 評価シート」（3学期発表会で使用）</li> <li>・東京都水道歴史館 見学＋下見</li> <li>・東京都水の科学館 見学＋下見</li> <li>・模造紙（発表会で使用）</li> </ul> <p>*進行とともに必要になるものは随時検討する</p>
活動	<p>《1学期 基本的な知識の習得と課題設定・個人活動、14時限配当》</p> <p>【1学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居の内容の理解を深める。</li> <li>・水についての課題を見つけることができる。</li> <li>・個人で調べた内容をノートに書くことができる。</li> </ul> <p>【1学期の活動】</p> <p>(1)オリエンテーション →「総合学習とは？」を全学年の学習を提示する。（1年間のイメージ） →水について考える。先生たちの意見も添える。</p> <p>(2)紙芝居 →具体的なテーマ、何を調べるのか課題を見付ける。</p> <p>(3)図書館の利用方法について説明する。 →ノートの取り方について学ぶ。</p> <p>(4)紙芝居を分割で振り返る。 →児童が内容をまとめる。 →何が課題なのかを話し合い、まとめる。</p> <p>(5)東京都水道歴史館を見学する。 →教員が博物館のいくつかを紹介し参考にしてもらう。→保護者に説明 →博物館学芸員の話を取らながら聞く。</p> <p>(6)個人ワーク →興味のある課題について調べ学習をする。</p> <p>*夏季休暇中に先生が児童の興味関心、レベルに合ったグループ分けをする。 グループは2学期初めに伝え、グループが機能するようにオリエンテーションする</p> <p>《2学期 収集資料の分析と発表の準備・グループ活動、14時限配当》</p> <p>【2学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した資料を整理する方法を習得し整理することができる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに調べたことを大きめの付箋紙に書き模造紙を使い整理する。</li> <li>・発表の準備活動を通して伝える方法を考えたり表現したりする力を習得する。</li> </ul> <p>【2学期の活動】</p> <p>(1)調べた内容をまとめる。 →まとめ方の指導をする。</p> <p>(2)班ごとに、各自まとめた内容を共有し、整理する。 →教員は各班の様子を見ながら、適宜アドバイスや指導をする。</p> <p>(3)模造紙を使って、発表内容をまとめる。 →昨年のもを参考として提示する。</p> <p>(4)グループごとに発表をする。</p> <p>(5)班ごとに発表を振り返る。</p> <p>《3学期 グループ活動(発表)、7時間配当》</p> <p>【3学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の発表を聞き、水についての自分の意見を持つ。</li> <li>・1年間を通じて学んだ、水のことについて振り返り、発表に繋げる。</li> </ul> <p>【3学期の活動】</p> <p>(1)授業参観日を企画し、グループごとに児童、先生、保護者、地域の人の前で発表をする。会場は各教室。</p> <p>(2)発表を聞いて感じたことや考えたことをコメント・シートに書く。</p> <p>(3)1年間を通じて学習した内容を振り返り、最後に自己評価シートと発表会の評価シートを書いて提出してもらう。</p>
<p>評価</p>	<p>《1学期 個人活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回答</li> </ul> <p>→アンケート内容は以下の通り</p> <p>①お風呂、トイレ、料理の中で1番水を使っているのはどれでしょうか。</p> <p>②①のお風呂、トイレ、料理以外に家の中では水を使う場面はありますか。(どんな時に水を使いますか。)</p> <p>③学校の中ではどんな時に水を使いますか。</p> <p>④みんなが使っている水はどこから来ているか知っていますか。</p> <p>⑤お風呂に入るには2Lのペットボトルが何本必要でしょうか。 (選択肢 ①1本 ②22本 ③43本 ④107本)</p> <p>⑥水について知っていることを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な調べ方がわかるようになる。</li> <li>・資料の読み取ることができる。</li> <li>・情報を十分に集め、まとめることができる。</li> <li>・自分の課題を探することができる。</li> <li>・水道歴史館に見学後の感想シートを書く。</li> <li>・1学期の自己評価シートを書く。</li> </ul> <p>《2学期 グループ活動(発表準備)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された疑問を選択することができる。</li> </ul> <p>→教員が質問したことに対して発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を探することができる。</li> <li>・協同的に活動し、思考力脱中心化ができていくか。</li> <li>・読み取ったことを記録し、自分の意見を発表することができる。</li> <li>・人の話を聞きながらメモを取ることができる。</li> <li>・2学期の自己評価シートを書く。</li> </ul>



	<p>《3学期 グループ活動(発表)》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 他者の発表に対して質問をすることができる。</li><li>• 他のグループが発表したことをノートに書くことができる。</li><li>• 自分たちと水の関わりについて理解する。</li><li>• 人の話を聞きながらメモを取る。</li><li>• 他者の発表を聞き、自分自身の見方、考え方を深めることができたか。</li></ul> <p>→コメントカードの記入内容、参加態度で判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 1年間を通じて学習テーマへの興味関心や理解を深めることができたか。</li></ul> <p>→自己評価シートを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 他者評価シートを記入する。</li></ul>
--	--

資料 1 1 : 総合的な学習の時間《年間指導計画／中高》2021年度

高等学校 担当：学生 5 名の共同制作

テーマ	世界の「水」や「トイレ」をめぐる現状を知り、日本ではどのような取組ができるのかについて考える。
学年	高校 1 年、30 時間配当(1 時間×50 分)
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と比較しながら、世界の「水」(特に飲料水)をめぐる環境や「トイレ」事情について現状を把握する。</li> <li>・「水」や「トイレ」の問題を解決するために、日本ではどのような取組ができるのかについて考える。</li> <li>・グループワークや発表を通して、自分たちの考えを論理的にわかりやすく伝える力を身につける。</li> </ul>
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南博・稲葉雅紀(2020)『SDGs—危機の時代の羅針盤』岩波新書・No1854</li> <li>・沖大幹(2016)『水の未来—グローバルリスクと日本』岩波新書・No1597</li> <li>・佐藤大介(2020)『13 億人のトイレ 下から見た経済大国インド』角川新書</li> <li>・各国データ表、白地図</li> <li>・英語教材(例 私がユニセフで働く理由～すべての子どもに、きれいな水を～(南スーダン <a href="https://www.youtube.com/watch?v=XWHJGwN6X7g">https://www.youtube.com/watch?v=XWHJGwN6X7g</a>))</li> <li>・模造紙</li> </ul>
活動	<p>≪1 学期：個人活動(グループ活動を含む)、10 時間配当≫</p> <p>【1 学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の「水」・「トイレ」をめぐる現状・日本企業の取組について理解する。</li> <li>・疑問文の作り方・レポートの書き方を理解する。</li> <li>・白地図や歴史、英語資料等を活用し、視野を広げる。</li> </ul> <p>【1 学期の活動】</p> <p>(1)ガイダンス→題材(SDGs、水、トイレ)についての説明</p> <p>(2)基礎資料を読む。</p> <p>→上記記載の 3 冊のうち 1 冊を読み、報告レポート*1 を書いてもらう。</p> <p>(3)生徒の興味関心に合わせて、疑問文*2 を考えてもらう。</p> <p>→単純かつ意図・根拠が明確な疑問文の作り方を教える。</p> <p>→教師が疑問文を整理し、似たような疑問を持つ生徒同士のグループを作る。</p> <p>(4)追加資料を提示する。(以下に具体的な取組例を挙げた。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各国データ表を参考にしながら、①改善された水資源にアクセスできる人口の割合、②改善された公衆衛生にアクセスできる人口の割合、③乳幼児死亡率を白地図上に示す*3。</li> </ul> <p>(クラスを 3 グループに分けて分担する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の動画や英文で書かれた資料を使用する*4。</li> <li>・トイレの歴史について調べる*5。</li> </ul> <p>→英語資料(現状把握)→トイレの歴史(過去)→未来について考えていく</p>

	<p>・日本企業の取組について調べ、皆で共有する。          (5) 各自の疑問をもとに調べる。          ・図書館→学校の図書館と連携し、総合学習のコーナーを設けてもらう。適宜、学外の図書館も紹介する。          ・博物館→教員がいくつかの博物館を紹介し、活用してもらう。          (6) レポートの書き方を学ぶ。          →夏休みを活用し、2学期が始まるまでに各自レポートを作成する。</p> <p>≪2学期：グループ活動、12時間配当≫          【2学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要約の書き方を理解する。</li> <li>・グループごとに調査内容を分析・整理し、発表方法を考える。</li> <li>・発表を通して、自分たちの考えをわかりやすく伝える力を身につける。</li> </ul> <p>【2学期の活動】</p> <p>(1) 完成したレポート*<sup>6</sup>をもとに、要約を作成する。          →要約の書き方を指導する。</p> <p>(2) 班ごとに、各自が要約した内容*<sup>7</sup>を共有し、整理・分析する。          →教員は各班の様子を見ながら、適宜アドバイスをする。</p> <p>(3) 発表方法を考える。*<sup>8</sup>。          →参考としていくつか例を提示する(模造紙、壁新聞、パネル等)が、班ごとに発表方法を工夫する。</p> <p>(4) グループごとに発表する*<sup>9</sup>。生徒1人につき1票を自分以外のグループに投票し、クラス代表を決める。</p> <p>(5) 班ごとに発表を振り返る。</p> <p>≪3学期：学年全体の活動(個人活動も含む)、8時間配当≫          【3学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のクラスの発表を聞き、「水」や「トイレ」をめぐる現状・改善策について多角的な視点から考える。</li> <li>・1年間を通して学んだことを振り返り、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <p>【3学期の活動】</p> <p>(1) 各クラスの代表が学年全体の前で発表する。</p> <p>(2) 発表を聞いて感じたことや考えたことをコメントカードに書き、皆で共有する*<sup>10</sup>。</p> <p>(3) 1年間を通じた学習を振り返り、最後に自己評価シートを提出してもらう*<sup>11</sup>。</p>
<p>評価</p>	<p>≪1学期：個人活動(グループ活動も含む)≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心を持って、基礎資料を読むことができたか。</li> </ul> <p>→報告レポートへの取組で評価する。(※1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意図・根拠を明確にして疑問文を書くことができているか。</li> </ul>

<p>→提出した疑問文をもとに評価する。(＊2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白地図を利用しながら、各国の現状を把握することができたか。</li> </ul> <p>→色を塗った地図を提出してもらい、理解が深まっているか確認する。(＊3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語資料を活用し、各国の現状を学ぶことができたか。</li> <li>・トイレの歴史を調べる。</li> </ul> <p>→どちらもワークシートを作成し、積極的に作業に取り組んでいるか判断する。(＊4、5)</p> <p>《2学期：グループ活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの書き方を意識しながら、まとめられているか。</li> </ul> <p>→最初の報告レポートの時よりも、内容・書き方を丁寧に確認する。(＊6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要約の流れに沿って書けているか。</li> </ul> <p>→「問題設定→調べ方→根拠→結論」という書き方の流れを確認する。(＊7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表方法を工夫することができているか。(＊8)</li> </ul> <p>→特に、判断力・表現力を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の成果</li> </ul> <p>→教員の評価と生徒からの評価をもとに総合的に判断する。特に思考力・表現力を評価する。(＊9)</p> <p>《3学期：学年全体の活動(個人活動も含む)》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他クラスの発表を聞き、自身の見方・考え方を深めることができたか。</li> </ul> <p>→コメントカードの記入内容、参加態度で判断する。(＊10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間を通して学習テーマへの興味関心や理解を深めることができたか。→自己評価シートを活用する。シートには、この学習をする前と後でどのような成長があったかという項目を入れ、それぞれの生徒の学習成果を評価する。(＊11)</li> </ul>
---

中学2年 担当：学生7名の共同制作

テーマ	世界の水とトイレ問題に私たちはどのように関わるか
学年	中学2年、30時間配当（1時間×50分）
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの6番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」についての内容を理解する。</li> <li>・水とトイレについての現状を把握する。</li> <li>・SDGsに関しての、地域・参加企業の取り組みを知る。</li> <li>・2030年までに「安全な水とトイレを世界中に」を達成する具体的な対応策を考える。</li> </ul>
使用教材	<p>以下の文献を、基礎資料として扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南博 稲場雅紀『SDGs－危機の時代の羅針盤』 岩波新書 1854</li> <li>・沖大幹 『水の未来－グローバルリスクと日本』 岩波新書 1597</li> <li>・佐藤大介『13億人のトイレ 下から見た経済大国インド』 角川新書</li> </ul> <p>以下のYouTube動画を、適宜視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ユニセフ協会 UNICEFJapanNatCom “13歳のアイシャの1日～水を得るために/日本ユニセフ協会” &lt;<a href="https://www.youtube.com/watch?v=PP0lvKmlfRY&amp;t">https://www.youtube.com/watch?v=PP0lvKmlfRY&amp;t</a>&gt;</li> <li>・日本ユニセフ協会 UNICEFJapanNatCom “トイレのない生活とは？ユニセフ「世界トイレの日プロジェクト」/日本ユニセフ協会” &lt;<a href="https://www.youtube.com/watch?v=3F-emFrN7JU">https://www.youtube.com/watch?v=3F-emFrN7JU</a>&gt;</li> </ul> <p>アフリカの水事情に関するワークシート使用 &lt;<a href="https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/assets/img/17goals/6-water/problem-pic-03@2x.jpg">https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/assets/img/17goals/6-water/problem-pic-03@2x.jpg</a>&gt;</p> <p>「私たちがつくる持続可能な世界 ～SDGs をナビにして～」プリント使用 &lt;<a href="https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/dl/SDGs_report.pdf">https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/kyozai/dl/SDGs_report.pdf</a>&gt;</p>
活動	<p>≪1学期：10時間配当≫</p> <p>【1学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの6番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」の内容を理解する。</li> <li>・水とトイレの問題に興味を持ち、それらについて問題意識を持つ。</li> <li>・基礎資料から、水やトイレの現状を把握し、現在行われている取り組みを知る。</li> </ul> <p>【1学期の活動】</p> <p>(1) SDGsの6番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」の内容を確認する。</p> <p>(2) 水とトイレの問題に興味を持ってもらうために、また、これからの学習への橋がけとなるように（問題意識を持つ際のヒントなど）、下記の動画を視聴してもらう。</p> <p>【水】</p> <p>日本ユニセフ協会 UNICEFJapanNatCom “13歳のアイシャの1日～水を得るために/日本ユニセフ協会”を視聴して、感じたこと・考えたことを意見交換する。</p> <p>→アフリカの水事情に関するワークシートを通して更に考えてみる。</p> <p>【トイレ】</p> <p>日本ユニセフ協会 UNICEFJapanNatCom “トイレのない生活とは？ユニセフ「世界トイレ</p>

	<p>の日プロジェクト」/日本ユニセフ協会”を視聴して、トイレのない暮らしの実態を知る。</p> <p>(4) 基礎資料を読む。</p> <p>SDGs・水・トイレの3つのグループに分かれて、それぞれの内容の本を読む。(分担は以下の通りである)</p> <p>※教師があらかじめ読む範囲を指定し、その部分の内容を理解する。→要約する。</p>
	<p>SDGsグループ…『SDGsー危機の時代の羅針盤』</p> <p>水グループ…『水の未来ーグローバルリスクと日本』</p> <p>トイレグループ…『13億人のトイレ 下から見た経済大国インド』</p>
	<p>☆グループの決め方☆</p> <p>基本、生徒の興味がある分野を自由に選択できるように、生徒の希望を尊重するが、あまりにも人数が偏る場合があれば、教師側で調整する。(各約10人程度を想定)</p> <p>≪2学期：10時間配当≫</p> <p>【2学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で決めたテーマについて調べ、理解する。(現状や取り組みなど)</li> <li>・そのテーマに関して、自分たちには何ができるのか、解決策を考えることができる。</li> </ul> <p>【2学期の活動】</p> <p>(1) 1学期分かれたグループから、さらに半分に分かれる。</p> <p>☆グループの決め方☆</p> <p>男女の比率や生徒の適性など、総合的にバランスを鑑みて、教師が決める。(各約5人程度を想定)</p> <p>(2) グループ内で1つの(読んだ文献に関係した)テーマを決め、更に深掘りして調べる。</p> <p>★「私たちがつくる持続可能な世界 ～SDGsをナビにして～」プリントを使いながら、調べ学習を進める。</p> <p>※情報収集は、インターネットに加え、あらかじめ図書室にある本をある程度指定し、提示しておく。</p> <p>(3) 発表準備</p> <p>発表にはパワーポイント使用を必須とし、情報機器に使い慣れてもらう。</p> <p>≪3学期：10時間配当≫</p> <p>【3学期の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに調べた内容を、他者に発信する。</li> <li>・1年間の学習をまとめ、自身の考えを持ち、主張する。</li> </ul> <p>【3学期の活動】</p> <p>(1) グループごとに調べた内容を、クラス全体に発表する。</p> <p>(2) それぞれの分野の代表グループが、中学1年生に向けて発表する。</p> <p>(3) 全グループの発表を通して、2030年に、今回の主題である、第6の目標「安全な水とトイレを世界中に」を達成するためには、自分たちには何ができるかを考える。(自分たちが調べた範囲だけでなく、他のグループが調べた内容についても踏まえ総合的に考える)</p> <p>(4) 1年間を総括した感想をまとめたレポートを作成。</p>

<p>評価</p>	<p>≪ 1 学期 ≫</p> <p>【知識・理解】</p> <p>SDGs の 6 番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」の内容を理解しているか。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水とトイレの問題に興味・関心を持っているか。</li> <li>・水やトイレについて、自分自身の問題意識を持っているか。</li> </ul> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎資料から、情報を正しく読み取れているか。</li> </ul> <p>≪ 2 学期 ≫</p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で決めたテーマについて調べ、理解できているか。</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのテーマに関して、自分たちには何ができるのか、解決策を考えることができているか。</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークに積極的に参加しているか。</li> </ul> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる調べ学習、また発表準備が、滞りなく進んでいるかどうか。</li> </ul> <p>≪ 3 学期 ≫</p> <p>【発表】</p> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを、分かりやすくまとめられているか。(まとめる力・パワーポイントなどの発表資料で評価)</li> <li>・調べたことを、分かりやすく伝えられているか。(伝える力・発表態度も含め、発表全体を通して評価)</li> </ul> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の振り返りと周りの発表をしっかりと理解できているか。(ワークシートや質問タイムで評価)</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く態度。</li> </ul> <p>【最終レポート】</p> <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全グループの発表を通して、SDGs の第 6 の目標である「安全な水とトイレを世界中に」を達成するためには、自分たちには何ができているかを考え、意見を持っている。</li> <li>・1 年間を通しての感想。</li> </ul>
-----------	--

図1：初等・中等教育の「学習期」と児童・生徒の発達段階（「学習期」は2010年時点）

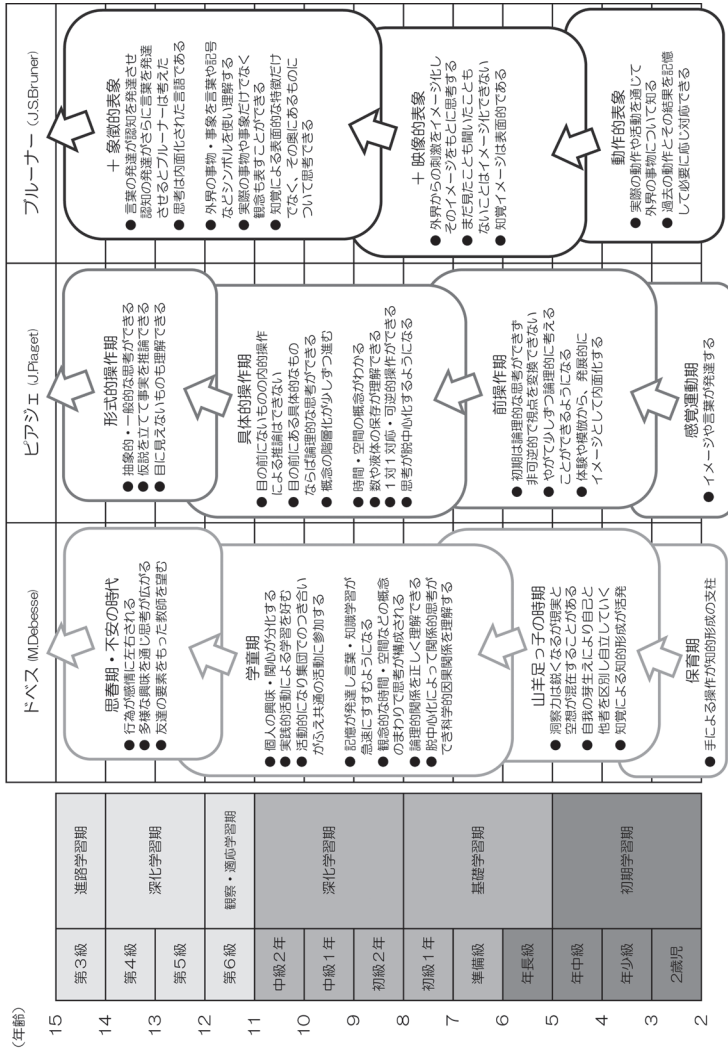
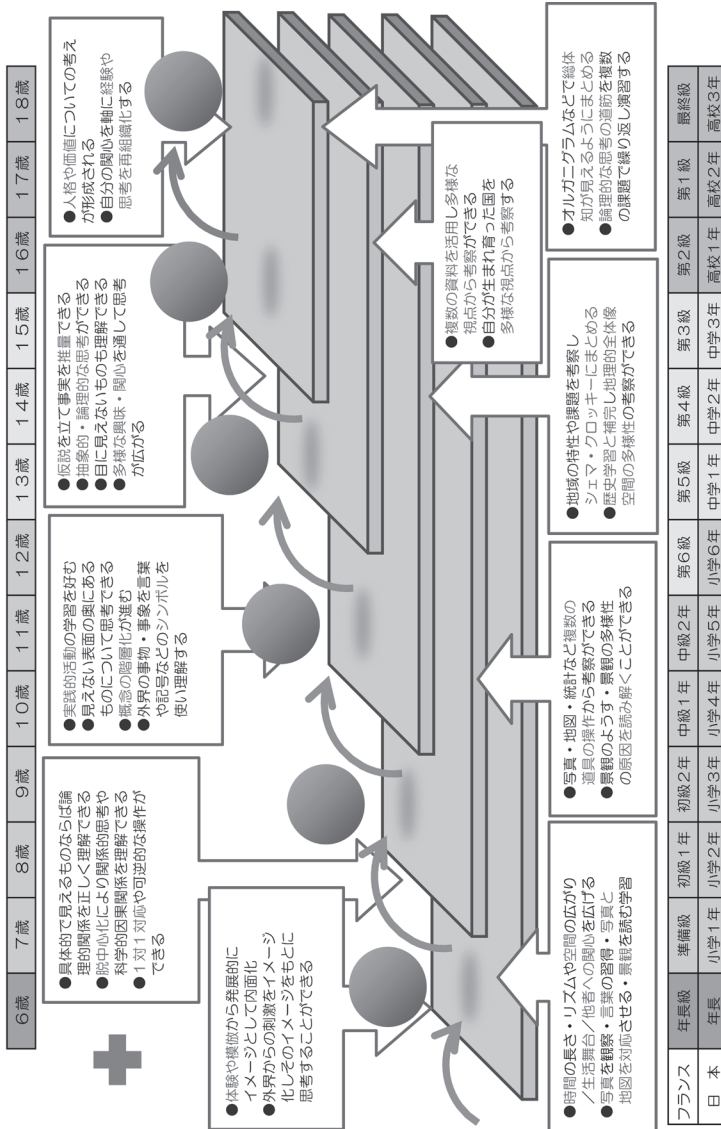




図2：児童・生徒の認知発達段階に対応する教科指導・学習指導の教育目標を例として～



フランス	年長級	準備級	初級1年	初級2年	中級1年	中級2年	第6級	第5級	第4級	第3級	第2級	第1級	最終級
日本	年長	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年

2021.10.31改 いくた作成

